防災シンポジウム　1000 年に 1 度をわがことに～災後をともに生きる～

会　　場：仙台国際センター会議棟 2F「橘」
時　　間：10：45～12：45
対　　象：一般市民の方、全校友および同伴者
参加者数：約 300 人
司　　会：宮川 晋氏（東日本大震災復興支援特別委員会 委員‘96 法）
出 演 者：開会挨拶　川下 史朗氏（東日本大震災復興支援特別委員会 委員長‘72 経済）
閉会挨拶　林 幸雄氏　（　　〃　　副会長‘73 産社）
コーディネーター　大泉大介氏（河北新報社 防災・教育部次長‘95 国関）
＜第 1 部＞シンポジウム
パネリスト 久保田 崇氏、佐々木 靖子氏（‘76 文）、村田 恭一氏（‘81 法）
西﨑 芽衣氏（‘17 産社）
＜第 2 部＞ミニセミナー＆防災食（缶詰）の試食会
登壇者　髙橋 拓児氏（‘91 法）、木村 長努氏（‘77 経済）

【第 1 部】シンポジウム

はじめに、復興支援特別委員会 川下史朗委員長による開会の挨拶があった後、コーディネーターの大泉大介氏の進行で冒頭に黙祷を行い、第 1 部では、岩手・宮城・福島の校友と大学関係者による「防災」をテーマにしたシンポジウムを開催しました。約 90 分にわたり、パネリストがそれぞれ被災体験と震災の教訓を語りあい、防災・減災の要点を確かめあいました。

会場の様子

左から久保田氏、佐々木氏、村田氏、西﨑氏

【第 2 部】ミニセミナー＆防災食（缶詰）の試食会

京都の京料理 木乃婦と宮城の木の屋 石巻水産が校友会のネットワークを活かして今大会にあわせて発足した防災食（缶詰）共同開発プロジェクト※『KINOBUYA PROJECT』による防災食（缶詰）のお披露目、試食会が行われました。宮城県石巻の女川漁港で水揚げされたさんまを素材に、木村長努氏が　経営する宮城の水産加工品メーカー「木の屋石巻水産」が仕上げた缶詰で、味付けは髙橋拓児氏が代表を務める京都の料亭「京料理 木乃婦」が監修しました。

防災シンポジウム（1 部・2 部）　コーディネーター大泉氏

缶詰の開発秘話を語る髙橋氏と木村氏

缶詰を試食する参加者達

缶詰（実山椒・梅）を手にする木村氏（左）、髙橋氏（右）

最後に、復興支援特別委員会 林幸雄副会長より挨拶があり、盛会のうちに修了しました。1 部 2 部共に参加者一人ひとりがこれからの防災・減災を考え、復興への想いを未来につなげる機会となりました。

アンケートの結果、参加者からは高評価を得られ、「防災シンポジウムを今後も開催して欲しい」「震災を風化させてはいけないと思った」「防災シンポジウムの時間が短い為、もう少しゆっくり聞きたかった」「ローリングストックをする等、防災を考えるきっかけとなった」「立命館の校友会のつながりで、このような防災食がつくられたのは素晴らしいことだと思った」「災害時、心が弱っている時にこんなおいしい缶詰を食べられたら元気が出ると思う！」等の感想が寄せられました。参加者のなかには、防災食に惹かれて企画に参加された方々、職業が防災士（一般）の方もおられ、東北地域における「防災」への関心の高さが伺えました。

なお、缶詰の収益の一部は宮城県「子どものたより場応援プロジェクト」に寄付されます。

実山椒

梅

商品名：KINOBUYA PROJECT さんまの缶詰（実山椒、梅）
価格：400 円（税込）
発売日：2018 年 10 月 20 日（土）
発売・販売：株式会社 木の屋石巻水産
HP：http://www.kinoya.co.jp/

パネル展示

復興支援特別委員会の取り組み（事業 A～C）の紹介、年表、東北応援ツアーの写真及び参加者の感想等、東日本大震災復興支援事業の７年の軌跡を一覧にまとめたパネル展示を実施しました。当日は復興支援特別委員の皆さまに、来場者とコミュニケーションを取りながら、解説を行っていただきました。

来場者に解説を行う復興支援特別委員